

## オセロ流読書感想文の奥義

### 読書感想文の奥義 その1 (はじめの心得)

- (1) 指定読書---学校の先生から指定された本について感想文を書く場合です。先生はとっても採点がしやすいですね。なぜなら、その本の内容をすべて知っていますからね。
- (2) 自由読書---読書感想文における本の指定がありません。その場合自由選択なだけに何の本にするか悩みますね。奥義というほどではありませんが、ズバリ好きな本、興味のある本、わかりやすい本にしましょう。当然ですが漫画はいけませんよ。

### 読書感想文の奥義 その2 (読書のタイプ)

- (1) コンクール作品などをねらうのはもってのほか、まずは文章を書く練習ぐらいで、気楽に書くことです。
- (2) 下書きをしましょう。いきなり清書(原稿用紙)は絶対にしてはいけません。下書きで字数配分をチェックするようにしましょう。

### 読書感想文の奥義 その3 (段落=骨組み)

一般的な段落は3段落です。以下のとおりです。

- (1) **本のあらすじ**---その読書した本のあらすじです。指定読書ならこのあらすじは書く必要もないかもしれませんが、しかし、自由に本を選択できる場合はこの感想文を読む人(先生)にまずはあらすじを説明しなければなりません。書く量は感想文全体が2枚ぐらいなら、このあらすじはだいたい3から4行でまとめれば十分です。ただし、ひとつ重大な注意があります。結論や結末はここではかかないでください。書くと終わってしまいます。それとあらすじとはその本の中身のまとめのことですから、この段落では感想はなくてOKです。
- (2) **感想・印象**---さて、次の2段落目はもっとも大切な段落です。感想文の中心であり、まさしく自分の感想を書くところです。しかしながら、あまりよくないのは、単に”おもしろかった”や”楽しかった”の連発です。何がどのようにおもしろかったのか、具体的に書きましょう。書き方のポイントをあげておきます。
- (3) **読んだ本全体に対する感想**---最後の段落は読んだ本全体に対する感想がいいですね。いわゆるまとめで、その本を読んで結局何を学んだのか書くのがいいまとめでしょう。例えば、その本を通じて大自然の美しさと恐ろしさを知った。とか、便利なものの使い方は日常のアイデアから生まれていることを教えてもらった。などです。

### 読書感想文の奥義 その4 (部分的なテクニック)

ここでは書くことにつまった、鉛筆が止まってしまった、といったときの部分的なテクニ

ックをお教えします。

- (1) 出だし---出だしでつまってしまった。あらすじが2、3行しかかけない。そのときは、
- その本をどうして選んだか書きましょう。
  - なぜこの題名がつけられているか考えてみると・・・の書き出しで書いてみましょう。
- (2) 感想の段落中---さてここは感想文の中心ですから、ここにつまっては大変です。ですからここではたくさんテクニックを紹介しましょう。
- 自分の経験で同じようなことがあったかさがして、そのことと比べましょう。
  - この本を読んで一番感動したことは・・・で書き出してみるとよいでしょう。
  - 登場人物（ねこでもいい）の行動や様子などと、自分の身の回りの人たちとの違いや同じところをあげてみましょう。そしてその違いや同じところをどう思うのかかいたらバッチリです。
  - もしも・・・、きっと・・・だろう、将来・・・、何で・・・なのか？などの書き出しで考えましょう。その中でも最もオーソドックスなのは、もしも自分だったら・・・、です。
  - 最近のニュースで同じような場面がなかったかさがして見て、その違いや同じところを考えてみましょう。
  - 物語の展開を自分で替えてみましょう。やはり使うのは、もしも・・・です。もしもあの時、おばあさんが川に洗濯に行っていなかったら・・・桃太郎は・・・だったでしょう。のように。
- (3) 結び---最後はあまりつまるところはないと思うのですが、一樣いくつかあげておきます。
- 読んだ本のその後を想像して書いてみましょう。
  - 感想文の読者（先生）に余韻を与える終わり方をしましょう。たとえば、音の余韻でしたら、いまだに私の耳の奥で、汽車の走る音だけがだんだんと小さくなりました。行動の余韻ならば、僕は主人公と同じように川に向かって石を思いっきり投げてみました。などです。少々高等な技かもしれませんね。
  - 本を読んで思ったことや学んだことを書きましょう。

### 読書感想文の奥義 その5 （裏技）

最後に裏技です。行数稼ぎにも使えるかもしれませんが、書いて悪いことではありませんので使用していただいて結構なのですが、採点・評価の対象にはあまりならないでしょう。

- その本を手にとった理由は・・・ といった書き出しで書きましょう。
- その本の登場人物への話しかけで、XXさん、お元気ですか。どうしてあの時・・・したのですか？等 裏技というより、最近の作品コンクールでよく見かけるようになりました。
- 作者のことを調べて書く。
- その本にあとがきがあれば、あとがきから何かを抜粋して書く。

### 読書感想文の奥義 その6 (原稿の書き方の巻)

なぜか原稿用紙への書き方には人によって若干の違いがあつたりしますが、もっとも一般的と思える書き方を掲載します。そしてこれは読書感想文でも作文でも同じです。

- 原稿用紙は400字詰めのたて書きが当然と思っていますが、当然学校から指定されたものがあればそれを使ってください。
- まずは題名です。先生や学校によります。2マスあけか3マスあけですが、2マスでいいのではないのでしょうか。
- 題名は1行目、名前は2行目、題名が長くて2行目までかかるときは、名前は3行目となります。
- 名前は下詰めですが、最後に1マスあけましょう。学年、組、番号はあけません。番号と名字は1マスか2マスあけて名字と名前は1マスあけましょう。
- 感想文のはじまりは名前の次の行で、必ず1マスあけましょう。
- 上記の奥義 その3のように3段落に分ける場合、すべて書き出しは1マスあけましょう。また、それ以外でも改行した後の文は原則1マスあけましょう。あまり良くないケースは、改行しないのに前文の読点（。）の後1マスあけて書き出す、もしくは改行したのに1マスあけない等です。
- 「 」 、 。 ? ! ” ” などはすべて1文字分となります。 。」は1マスにいれましょう。 ……は2マスにしましょう。
- 句読点（、。）や閉じかぎ（」）、々などは行の始まりにはきません。
- 引用文は「 」を使いましょう。縦書きなので数字は漢数字が原則です。

### 読書感想文の奥義 その7 (禁じ手)

最後の最後に禁じ手です。以下の2つです。あつてはならないことですが、当然ですよ。

- 読書感想文が宿題になったことの批判を書く
- 本の批判を書く。一般的にはありえません。まして、自分で本を選んだ自由読書ではもってのほかです。

\* 最後に一言ですが、これはとりあえず感想文を仕上げることに重点をおいておりますので、上記奥義への反論の方々もいると思いますが、これは私的見解によるものとしてお許しください。皆様の参考になれば幸いです。